

## 総会資料

### 第3号議案

#### 2021年度活動方針

##### 1. 回顧

###### 1-1. デモグラフィック的效果

①ヨード欠乏症プロジェクト：参加者：妊婦プロジェクト 607名、新生児母子 64名、産後母子 10名、家庭調査 194名。延 875名の村人にヨード欠乏症が病気であり、ヨード添加塩によりヨード欠乏症が予防できることを啓蒙、教育してきた。②昆布ミネラルカプセル：受給者：妊婦プロジェクトヨード欠乏 127人 カプセル数 22860錠、甲状腺腫患者 8名 3年間。カプセル数：約 8000錠。合計 30,860錠のカプセルを供給し、母体強化に貢献してきた。③栄養教育プロジェクト：短大生 50名、コミュニティ集会 48名、ネパール大震災、被災地子ども教育（衛生と食事） 350人。ネパールに栄養学に詳しい専門家が少なく、小学校の教科に載っていないのが現状。満腹から栄養バランスのとれた食事の大切さを、更に啓蒙すべきと思う。事業費 10,044,955円、管理費 2,106,335円、計 12,151,290円。法人投資額（2008年～2018年（決算書より）、この他に自主研究費あり。

###### 1-2. 社会的貢献

①妊婦ヨード補給プロジェクトの期待はヨードの十分な母体のもとで、ヨード欠乏のない新生児を出産し、そのままヨード欠乏のない大人に 100%育ってほしいことである。しかし、1歳未満の新生児のヨード濃度を検査したところ、1/2は欠乏なしの正常児で期待通りだが、残りは欠乏、過剰がそれぞれ 1/4 ずつで分かれていることが判明。ヨード添加塩による一般母集団からみれば、昆布カプセルによるヨード補給は 2 倍の成育正常児率となる。2 倍の健康改善効果といえよう。

②わずかな人数の母親面談で確認できたことであるが、昆布ミネラルカプセルで生まれた 2,3 歳の新生児と 10 歳の児童の、誕生後の成長を見ると、他の兄弟姉妹より、力強く病氣しないと母親は証言している。彼らは村コミュニティの中でリーダー的役割を果たす大人に成長するであろう。生産人口の増加を狙うネパール政府のヨード添加塩の普及に対し、妊婦ヨード補給プロジェクトは、村のリーダーの人づくりに貢献することになる。国家政策の補完的役割を果たしている。もう一つの貢献は妊婦の出産効果があったこと。他の子の出産時に比較して、元気で楽に出産ができ、死産もなかったと、喜ばれている。

③このように、新生児や出産時に効果をもたらした事は、昆布ミネラルカプセルに対する自己評価としよう。当時、世界で最も普遍的なヨード補給方法はヨード添加塩であった。食塩に添加されているヨード化合物がヨードカリ・KI という化学薬品であることに違和感を持った。そこで妊婦に優しく、吸収され易いのは栄養素として豊富な昆布に注目した。昆布であれば食塩流通段階でのヨード流失問題も同時に解決されるので、日本で豊富な昆布の加工に腐心した。一手に受けてくれたフジッコ（株）さんと出会いが、ここまでプロジェクトが完成した大きな原動力となった。当 NPO のよきパートナーであり、スポンサーになって

いただいた。感謝である。

## 2. カトマンズ栄養専門学校専任スタッフ育成プログラムの着手

ネパールの中流階級の市民を対象にカトマンズ栄養&料理専門学校の建設を行い、バランスの取れた栄養知識を取得し、多様な食生活の楽しさを学びながら、ヨードをはじめ鉄分、その建設の前段階として、専門学校のメインスタッフになる栄養士の育成が急務。その育成の一環として日本研修を実施する。

①氏名 HELI JIMEE RAI (ヘリジメ ライ)

年齢 25歳 国籍 ネパール

学歴 トリブヴァン大学食品栄養学修士在学中

②氏名 BHISMA RAI (ビスマ ライ)

年齢 28歳 国籍 ネパール

現職 Metro Kathmandu Hospital 臨床栄養士

学歴 トリブヴァン大学食品栄養学修士在学中

・研修期間 2021年6月～2024年5月

・研修拠点 京都市 奈良市など

・支援団体 京都ロータリークラブ他

## 3. カレンダー2022年度版 制作販売

## 4. ヨード補給活動

コロナ感染が収束し次第、チョウタラ病院と今後の推進について打ち合わせを行う。

以上

## 第4号議案

### 2021年度収支計画

#### 「収入」

1. 会費	250,000円
助成金	100,000円
寄付	1,000,000円
計	1,350,000円

#### 「支出」

研修事業費	1,000,000円
管理費	300,000円
その他	100,000円
計	1,400,000円

以上